

〒272-0031

千葉県市川市平田3-5-1 トノックスビル2階

認定特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構

代表理事

大島 巖 様

2016年7月26日付で貴機構よりいただいた文書につき、回答します。貴機構の主張する本誌への訂正記事掲載、書面による謝罪、理事及び職員名の無断使用による記事構成に対する誌面および書面による謝罪要求は、はなはだ常軌を逸したものと云わざるをえません。

本誌は統合失調症薬ゼプリオンによる85名の死亡事例を重く受けとめ、その事実を公表した貴機構に「週刊現代記者」と名乗ったうえで連絡をしました。これは明白な取材行為です。そこで貴機構島田豊彰専務理事および丹羽大輔氏が発言した内容を録取し、掲載しております。丹羽氏の「統合失調症の薬で死亡例が多い」という発言を、読者によりわかりやすく紹介するため、本誌で死亡例を確認したジプレキサとリスパダールという具体的薬名を加え、コメントとしましたが、これをあたかも身分を謀って取材を試み、貴機構2名が虚偽の事実を述べたかのように本誌が改ざんしたとして「ねつ造」と指弾し、貴機構の不条理な主張を一方的にHPにて公開するという暴挙に及んだことは社会通念上許されざる行為です。さらに、そうした貴機構の非常識な行為により、「週刊文春」が本誌の医療特集全体を「ねつ造」と決めつける報道をしたことに、本誌は嚴重に抗議しております。貴機構はその「週刊文春」の記事のきっかけを作り、あまつさえ「週刊文春」にコメントを出して、本誌の信用を著しく貶めました。

その過程において本誌担当者が貴機構の求めに応じ、話し合いに訪れたところ、その会話を公開を原則として一方的に録音しようとし、本誌担当者が公開しないことを条件に録音を承諾したにもかかわらず、そのような問題の解決に向けた真摯な話し合いさえ公開すると脅迫する貴機構の姿勢は、医療問題を扱う認定特定非営利活動法人としてはなはだ常識はずれな、信義にもとる行為と言えます。

また、貴機構理事には、問題の統合失調症薬ゼプリオンを製造する製薬会社出身者がいることも、本誌は把握しております。貴機構がゼプリオンによる死亡例を公表しながら、その事実の背景を掘り下げようとする本誌に独善的かつ執拗で矛盾した抗議を繰り返す要因に貴機構内部の事情があるのであれば、本

誌がその事情を忖度する筋合いはありません。

よって、貴機構が求める、謝罪、訂正記事に本誌は応じません。貴機構が威迫する交渉過程の公開については、本文書を全文公開するならやむをえませんが、明白に公開を拒絶した会話テープの開示は、厳に認めることはできません。

2016年8月2日

〒112-8001
東京都文京区音羽2-12-21
株式会社 講談社
週刊現代編集部
編集長
山中 武史

